

— 1966. *Mycologia* 58: 13-23. Brefeld, O. 1872. *Bot. Unters. Schimmelp.* 1: 41-56. Dobbs, C. G. & M. P. English 1954. *Trans. Brit. Mycol. Soc.* 37: 375-389. Embree, R. W. 1962. *Mycologia* 54: 305-308. Leadbeater, G. & C. Mercer 1957. *Trans. Brit. Mycol. Soc.* 40: 109-116. Mehrotra, B. R. & R. K. Kakkar 1969. *Sydowia* 23: 200-202. Mehrotra, B. S. & U. Baijal 1964. *Ibid.* 17: 171-173. Richardson, M. J. & G. Leadbeater 1972. *Trans. Brit. Mycol. Soc.* 58: 205-215.

* * * *

Piptocephalis minuta (エダカビ科, ケカビ目) を新種として記載, 報告する。従来, エダカビ属を最もよく特徴づけてきたのは, 脱落性の “head-cell” (分節胞子嚢形成細胞) であるが, 近年, この head-cell を欠く 2 種が発表されている。本種は head-cell を欠く第 3 番目の種類となり, 次の特徴が挙げられる。1) head-cell を完全に欠き, 各端枝の先端に唯一つの分節胞子嚢を形成する。2) 胞子嚢柄は匍匐菌糸から横枝を打つようにして生じ, 他種において見られるような顕著に分化した太い主軸を持たない。3) 接合子は粗面で, 多数のとげ状要素より成る円錐形の突起で覆われる。

○高等植物分布資料 (90) Materials for the distribution of vascular plants in Japan (90)

○ヤブミョウガ *Polia japonica* Thunb. 白石市在住の相場清一氏は, 昭和50年8月18日, 宮城県丸森町次郎太郎山々麓 (阿武隈川南岸, 標高約70m) [桑折 403376-43] で本種の小群落を見出した。筆者は, 氏の案内で8月24日を初め, 3回にわたって自生地を観察することができた。小群落は, 15m ほど間隔をもった2ヶ所からなり, 一方は, 開花個体3株 (草丈 30~50cm) を含む10株にも満たない小群で, 高木層のスギ (植林) が伐採されたため壊滅寸前の状態にある。他方は, 開花しているものはなかったが, 草丈 50~60cm の株を筆頭にして, 走出枝によって繁殖した小さな個体が約60株確認できた。北西へ約30度の傾斜をもつこの自生地周辺には, オオバノイノモトソウやフトボナギナタコウジュが多く見られ, 数十m離れた岩場にはマメズタの着生もあり, 附近一帯にはその他の暖温帯性植物が豊富である。

本種は, 従来, 日本海側では飛島, 太平洋ではいわきまで知られていた。従って, 本自生地は, 太平洋側における最北の産地と思われる。なお, 8月24日に採集した標本は, 国立科学博物館 (TNS 334866) の標本庫に納めてある。

(宮城県白石市 [] 上野雄規)